

乙訓圏域障がい者自立支援協議会
令和5年度 第5回「医療的ケア」委員会 会議録

日時 令和6年2月1日(木) 13:30~14:50

場所 乙訓総合庁舎 第2会議室

出席者 14名

キャンパス、乙訓ひまわり園地域生活支援センター、乙訓ポニーの学校、乙訓障害者支援事業所連絡協議会、乙訓福祉会、乙訓医師会、京都府乙訓歯科医師会、京都府歯科衛生士会、乙訓訪問看護ステーション連絡会、京都府立向日が丘支援学校、乙訓の障害者福祉を進める連絡会(3)、長岡京市障がい福祉課

欠席者 9名

第2乙訓ひまわり園、向日市社協障がい者地域生活支援センター、京都済生会病院、乙訓の障害者福祉を進める連絡会(1)、乙訓保健所保健課、乙訓保健所福祉課、向日市障がい者支援課(2)、大山崎町福祉課

事務局 3名

傍聴者 3名

配布資料 ・次第

- ・研修会「歯科医療受診困難者における問題点と対策～かかりつけ歯科受診の検討～」報告書
- ・令和5年度「医療的ケア」委員会活動報告(案)
- ・NPO 法人医療的ケアネット 情報提供資料

会議概要

1 医療型短期入所の利用に向けて

- ・10月3日(火) 13:30~15:00 医療型短期入所「春風」見学と説明会

委員長 ・医療型短期入所「春風」見学と説明会について、担当の方をお願いしたい。

事務局 ・相談支援事業所連絡会で事業所に確認をとったところ、利用したいという相談中のケースが1件あるとのこと。その他には具体的にはケースがあがってきていない。
・相談支援事業所連絡会とはまた別に、家族の方が「春風」について知らない、利用がしづらという意見があり、家族の方向けにも周知の機会が必要ではないかという意見があった。

委員 ・近さで言えば理想的な近さである。個々の問題は個々によって違うので少し詰めていかないといけない問題はいっぱいあると思う。場所や中身の様子を見たいと思う本人もいるだろうし、家族もどんなところなのか、どんな風に過ごすのかを知った上で利用の手をあげたいと思う。本

人や家族向けの見学会や説明会を設けていただけたらと思う。

副委員長・次年度の課題や今年度のまとめをしていく中で、次年度家族に向けての説明会を開催するのか等を検討していけたらと思う。

委員 ・一年目ということで相談員向けに、利用のことも含めて見学と説明会をさせてもらった。今の意見をいただいて、もっと周知していくにはどうしたら良いか委員会の中でも話し合っていく必要があると思っている。

2 周知活動（社協祭り）について

- ・11月5日（日）大山崎町社協祭り・11月19日（日）向日市社協祭り
- ・令和6年3月16日（土）長岡京市社協祭り

事務局 ・大山崎町と向日市の社協祭りは終わっている。長岡京市社協祭りが3月16日にある。内容は大山崎町社協祭りでやったような当事者との交流、喀痰吸引のシミュレーター体験、クイズと動画を考えていたが、会議の中でフロアが騒がしい可能性があるため動画が難しいかもしれないので詰めていく必要がある。場所はバンビオ2階、市民ギャラリーの体験コーナーの枠をもらっている。福祉等体験コーナーのひとつの枠として「医療的ケア」委員会も場所を設けさせていた。体験コーナーで体験していただいた方に「気づきのコーナー」という体験して気づいたことを書ける紙を貼る場所があり、そこに貼れるような紙を体験された方に渡して、その紙を貼った人はポップコーンをもらえるという仕組みになっている。祭り全体の終わりにはビンゴ大会があり、もしかしたら景品詰めや司会等ビンゴ大会にも関わっていく必要があるかもしれない。何か意見等があれば、2月の会議で確認したいと思う。

副委員長・当日は事務局と私で参加する予定である。お手伝いいただける方がいれば、ぜひ声をかけていただきたい。

3 医療的ケア児等コーディネーター養成研修修了者のフォローアップ交流会について

- ・11月7日（火）13:30～15:45 第1回フォローアップ交流会
- ・令和6年2月15日（木）13:30～15:30 第2回フォローアップ交流会

委員 ・乙訓圏域で京都府の医療的ケア児等コーディネーター養成研修を受講されて修了された方の情報交換、交流、学習等を目的に連続して開催をしてきた。昨年度2回と今年度1回目はモデルケースを出していただき、その事例の状況や課題を参加者で話し合う中で地域の課題やこの地域に何があれば良いのか等を話し合っ共有する形の交流会を行ってきた。小さな子どもからスタートして学齢期の方、大人の方ときて、今年度の2回目については違った形で行う相談をしてきた。今回はパネルディスカッション形式で病院のNICUから家に帰ってきて、家での生活におけるサポート体制や医療のバックアップの体制も含めて支援体制を作っていくというプロセスのところ、どんなことが実際に行われていて、どんな人達が関わっていて、そこにどんな課

題が今あるかということを実際に事例に関わっている医療や保健、福祉の関係者からパネラーとして出ていただき、ここでの話を聞いて参加者でまたグループになり討論していくという形のものをご考えている。今月の15日に開催される。内容についてはまた報告をしていきたいと思う。今の申込状況はどうだろうか。

事務局 ・6名である。

委員 ・今年度の京都府のコーディネーター養成研修が2月8日(木)・9日(金)で行われる。今年度の乙訓圏域の受講者は3名と聞いている。全体で80人ぐらいという状況である。この地域の相談支援、訪問看護、事業所で仕事をされている医療的ケアのある方に関わっている方が修了されている。新たに修了された方に声かけをしながら今後もやっていきたいと思っている。

副委員長・パネルディスカッションで話していただく方の中に家族さんも予定している。養成研修を修了していてもケースとして持ったことのない修了者もいるので、そういった意味では勉強になる学習会になれば良いなと思っている。

4 施設口腔ケアについて→口腔ケアに関わる様々な課題整理について(仮)

・令和6年1月25日(木)研修会

「歯科医療受診困難者における問題点と対策～かかりつけ歯科受診の検討～」

副委員長・口腔ケアの研修を1月25日に事業所の方に呼びかけて行った。たくさんの方に参加していただきたく、午前の部と午後の部に分けて2回行った。参加者が午前の部23名、午後の部が8名だった。内容は大橋委員と岩崎委員の講演後、講師と参加者の意見交流会を行った。かかりつけ医を持つ意義を皆さんと共有ができたと思う。意見があればお願いしたい。

委員 ・こういう時間と場所を用意していただき大変感謝している。地域療育等支援事業が途切れた後にどうするのかというところで、どうしても初めはどこからお金を持ってくるかという話に向いてしまうが、同じことをやろうと思っても尻すばみになっていく。

「歯科検診と口腔ケア」のアンケートを見るとやっているところはやっているが、やっていないところはやっていないという二極化が起こっている。全員の口腔管理をしていくことを考えた時には、どこかしの歯医者定期的に管理してもらうのが一番である。そうすれば口腔ケアは自ずとついてくるので、口腔管理をすることが大事なのではないかというところに立ち返って、かかりつけ医を作りませんかという話をさせてもらった。

講演の中でも話をしたが近くにある歯医者で対応できる方はたくさんおられるので、今虫歯がないから、訴えがないから、痛みがないからではなく、治療が必要となった時のハードルの高さが物凄くある。医療受診の難しい方やスペシャルニーズの対応の方には特にある。慣れ親しんでおく、予防しておくことが大事であることを伝えたいので、近くのかかりつけ医を作らしようということである。どうしても近くで対処できないという時には、今までは二条の歯科センターまで行かないとなかったが乙訓で私が医院を作ったので来ていただいたらという提案をさせていただいた。

研修会のアンケートを見ていると、かかりつけ医の必要性はないと答えた方は0名だったので

理解いただけたかと安堵している。受診につながらない背景を見ると、ハードルが高いということもやはりあるようで、どうやったらハードルを低くできるのか、高いハードルを乗り越えさせてあげられるのか等をこれから検討していかないといけない。次の課題だと思っている。

委員 ・グループホーム等生活というところで関わっていると、自ずと口腔状態を見る形になりやすいと思う。就労支援に行っている方だと内科的な健診は事業所でもあると思うが、口腔の管理は個別の意識になる。重度の方だけでなく軽度と言われている方々も含めて、つなぐことが必要である。今回、大橋委員が「はれの樹」を立ち上げ、地域でかかりつけ医を作るという流れを作ってもらったが、歯科につないでいくのを誰かが担わないといけないと感じた。

副委員長 ・一般的に歯の治療には怖いイメージもある。それを障がいのある方がいきなり歯の治療をされるというのはハードルが高いと思う。日頃から家族や施設職員が口腔ケアの意識を持つためにも、歯科のかかりつけ医がもっと身近になるような働きかけを施設職員等がしていかないといけないと感じた。

5 特別支援学校医療的ケア安心サポート事業について

委員 ・医療的ケアを要する児童の送迎について、バスに乗れない児童、生徒がこういう事業を活用しながら学校に通うところをサポートしている。京都府教育委員会が立ち上げた事業である。昨年度はまだまだ活用方法のところで保護者のニーズを聞きながら進めていった一年だった。その中で保護者の声の中にはキャンセル料のことが出てきている。それについては今年度、キャンセル料の負担については保護者に負担がないように変更されている。この事業も色々と書き変えていきながら、より必要な事業として活用できていっているのではないかと考えている。本校でも利用を進めていっている。身近に使っていける事業として、これからも保護者の負担を軽減しながら学習を続けていく環境を整えていくというところで進めていきたいと思っている。

委員 ・バスに乗っていない子というのはどういう子達なのだろうか。

委員 ・基本的に看護師が行う医療的ケアが必要な子。バスの中ではケアを行うことができない。バスの中での医療的行為ができない児童、生徒については基本的に送迎をお願いしている。医療的ケアが必要であったとしても全てではない。そのバスの中で何かあった時に医療的ケアを行わないといけない場合ということなので、ケアがあるから乗れないということではない。

副委員長 ・次年度も引き続きどのような状況で使われているのか等、保護者から意見が出てきたら、この委員会でも共有させていただければと思っている。

6 今年度の活動報告について

副委員長 ・今年度、最後の委員会となる。まとめをしていきたい。活動報告（案）を作っている。意見をいただきたい。

・「令和5年度「医療的ケア」委員会活動報告（案）」を読み上げ

委員 ・「4 今年度の活動」の「(4) 医療的ケア児等コーディネーター養成研修修了者のフォローア

ップについて」のところで、第1回の内容に「成人期の方のケース」というのは書いておいた方が良いと思う。

副委員長・「4 今年度の活動」の「(5) 施設口腔ケアについて」はとても長くなってしまったが、どうだろうか。

委員 ・必要がある、ないも大事だが、その前にどのぐらいの方が受けていて、受けていない方との格差があることが大きいように思う。アンケートで健診や口腔ケアができない理由の中の一部だけを列記すると、それがピックアップされるので、そこは具体的に書かなくても良いように思う。アンケートから見えてきたことは書いた方が良いのかなと思う。もう少しスリムになるように考えさせていただく。

委員 ・「検診」と書かれているが事業所等で受ける場合は「健診」となる。歯科医院等できちんと受診すると「検診」となる。

副委員長・この文章の場合は「健診」が正しいということで、修正させていただく。

委員 ・「4 今年度の活動」の「(6) 医療的ケア児・者の生活を支えるために必要なことについて」のところで「医療的ケア児安心サポート事業」ではなく「医療的ケア安心サポート事業」が正式名である。そして向日が丘だけがこの事業をやっているのではなくて、京都府の特別支援学校がやっている内容であるので、「向日が丘支援学校送迎に係る」と書いてしまうと限定化されてしまう。前半をとってもらって、「府立特別支援学校の通学支援」というようなところから「医療的ケア安心サポート事業」という書きの方が良いかと思う。

副委員長・修正させていただきたい。

・次に「5 次年度の課題と方針」のところで、意見等あるだろうか。

委員 ・3号研修については今年は8名の受講で近隣のひまわり園や乙訓福祉会からの受講者が少なかった。前年が19名だった。人材が枯渇している。色んな事業所から出してもらうが、そこに新しい人が入っていない等、学生もすぐに受講はできないのでそういうところで地域の掘り起こしが一番大事なと思う。乙訓福祉会がやらなければいづみ福祉会等遠方になってしまう。この2年の行政や保健所への3号研修の周知に手ごたえはあったが、実際の応募に結びついていないのを何とかしたいと思っている。

副委員長・「(3) 医療的ケア児等コーディネーター研修修了者のフォローアップについて」はもう少し具体的なところが必要かと思っているが、意見をいただければと思う。

委員 ・次年度以降の具体的な内容の相談までできていないところがある。

次年度以降の京都府の障害者基本計画と福祉計画の検討に医療的ケアネットの理事として参加している。その中で医療的ケア児等コーディネーターの配置の促進は項目としてあがっており、それぞれの圏域や地域の実情に応じた中で、これから検討されていくのかなと思う。京都府は医療的ケア児等支援センターがリードする形ではないように思っている。乙訓では医療的ケア児等コーディネーターをどんな風に位置付けて、どういう風に活動を進めていくのか、市町とも意

見交換しながらになるが次年度に課題として入ってくるように思う。

その辺りとあわせて書きぶりを考えた方が良くかと思っているので、考えたい。

副委員長・京都府との情報共有もしてきている。案をいただきたいと思う。よろしくお願ひしたい。

委員 ・その辺りも念頭に置きながら、必ず「ことのわ」にも参加してもらっているのて、その点は入れておいた方が良くかと思っている。

副委員長・「(4) 歯科におけるかかりつけ医の必要性について」という題にしているが、ここはどうだろうか。

委員 ・「歯科における」は消して、「かかりつけ歯科による口腔管理の必要性について」でお願ひしたい。「かかりつけ医」というよりは「かかりつけ歯科」、歯科衛生士も含めて全体のことになる。1行目の「かかりつけ医による」のところも「かかりつけ歯科による定期的な口腔管理の必要性」となる。次年度の取組というところて思っているのは、施設での健診と口腔ケアについてのアンケートをいただいて、そこでの問題点の抽出はできているが、今度は個々の皆さんが現状どうなっているのかの把握をしないと次のステップへいけないので、協力をいただかないといけないが、どれぐらいの人がかかりつけを持っていて、どれぐらい必要性を感じていて、それに対するハードルは何かみたいところを把握したいと思う。それによって、どういふ働きかけをして、どれぐらい改善をしたのかというところをやっていかないと、ワーキングチームがある意味がないのではと思うので、そこについては検討したいと思っている。「障がい児者の「かかりつけ歯科による定期的な口腔管理の必要性」について、」の後に改めて「対象者の現状を把握し」という一文を入れてもらいたい。そして「また、受診に繋がらない課題があるのなら」という文章は繋がらない課題はあると思うので、「課題について、その理由と対策を協議することも必要だと考えています。」でどうだろうか。

副委員長・意見をまとめて、修正案をメールで送らせていただく。最終確認をお願ひしたい。

7 その他

・NPO 法人医療的ケアネットより情報提供

委員 ・医療的ケアネットの方ではコロナが落ち着いてからも活動が十分にできていなかった。例年、毎年セミナーやシンポジウムを行っていたが、オンラインという形で連続5回実施をしてきている。『ライフステージを通しての「医療的ケア」』というシンポジウムの講演録、報告したことを文章にして、その時に使った資料等も掲載し、一冊の冊子にまとめている。

プロローグの後の「2「第3号研修」の現状と問題点」のところは私が、第3部の「4 筋ジス病棟からの地域移行の実際」のところは大藪委員が報告をされている。

その発刊記念のシンポジウムが行われる。今回、医療的ケア児等支援センターの方から今の現状、課題の報告、この圏域でも実際のケースに関わってもらっている訪問看護の松井さんや医療的ケアネットの理事でもある田村先生も参加されてシンポジウムを行う。オンラインなので、参加いただければと思う。

副委員長・申し込みをしたら後日、配信を見られるのだろうか。

委員 ・リアルタイムだけでなく、QR コードから申し込みをしていただき受講費を払っていただくと、いつでも見ることができるので、よろしくお願ひしたい。

委員長 ・今年度最後の委員会となる。ご苦勞様でした。色々あると思うが、来年度も続けてやっていたければと思う。ありがとうございました。

副委員長・久しぶりに「医療的ケア」委員会に参加させていただき、ワーキングチームをやらせていただき勉強になった。3月16日には長岡京市社協祭があるので周知活動も残っている。周知活動も含めて、色々なワーキングチームで勉強させていただいたので、来年度も参加していければと思っている。ありがとうございました。

委員 ・初めての参加でわからないこともいっぱいあり、帰ってから色々勉強させていただいた。ありがとうございました。

委員 ・春風のモデルケースをさせていただき、役に立てたのかなという気もするが利用されている人もいないのでどうなのかなという気持ちもある。春風がより良く使えるようになれば近いので、何とか使えるような仕組ができれば良いと思う。ありがとうございました。

委員 ・私がこの委員会に参加しているひとつの目的は、医療的ケアの人達の短期入所を身近にという思いがあった。今年、モデルケースとして一步踏み出したことはとても明るいニュースだった。これからも、また来年に向けて増やして行っていただきたいのと同時に、向日が丘支援学校が建て替え中である。そこに共生型の施設が建つ。親の会、家族としてはそこにどんなものができるのかという期待と希望で大きな話題となっている。その中でも短期入所、緊急事態に備えることがまず第一だが、3名で良いのかと親としては思っている。この委員会の中で医療的ケアの短期入所、ないものを作るのであれば本当はないものを作っていただけるよう要望を出せば良いのになと思っている。前回、親の会のアンケートの載った会報を配布できたこと、とても良かったと思っている。親として何かお役に立つことがあれば良いなと思っている。ありがとうございました。

委員 ・本校に通う児童、生徒が地域で生きるというところでは、卒業後というところを見据えたうえでの情報交換だったり、色々なことを知る機会になり勉強させていただいた。地域の医療的ケアのことを知ったうえで、学校として何ができるのかというところを共有していければ良いなと思っている。一年間ありがとうございました。

委員 ・今年初めて参加させていただいた。初めてのことばかりで、あまりよくわからないうちに終わってしまったが、色々やっていると課題が見えてきている。微力ながら何かできれば良いなと思っている。ありがとうございました。

委員 ・今までほぼ必要性の認識も実績もなかった口腔ケアが、ここまで必要性が出てきて実績もあがってきた。ようやく医療的ケアに匹敵するぐらい必要だというところの認識まであがってきて、今後はそれを定着させていく。地域の中で定着させていくことも大事だが、今目標にしている個人の中でのかかりつけ医としての定着を実現させていければと思っている。今後も皆さんの力をお借りしたいと思っている。よろしくお願ひしたい。ありがとうございました。

委員 ・今年度から参加させていただいた。発言できる場に来たので自分にできることは精一杯やろうと思って一年間いっぱい話をさせていただいた。地域の現状をたくさん教えていただき、少し

ずつ見えてくるものもあった。今後も関わり続けながら、この地域の医療的ケアに限らず障がいのある方の何か力になれば良いなと思っている。今後ともよろしく願いしたい。

委員 ・今年、3号研修の受講者が8名、前年が19名ということで、一度受けたら基本研修を受けなくて良いということもあるが事業所を辞められている等、人が増えていないと感じている。新しい人材が枯渇しているところがある。その手立てをどう考えていくのか。地元の方の掘り起こしを、本当に必要なんだということを知ってもらいに行かないと行けないような気がした。

委員 ・一年間ありがとうございました。平成19年の乙訓の自立支援協議会の立ち上げのところから、基本的に一貫して医療的ケアに関する協議の場には関わらせてもらっている。地域での課題、協議というところで中心的に動いてくれる方の世代交代はやっていかないといけない。その辺りも含めて、来年度以降の自分の動き方も考えていきたいとは思っている。乙訓でも医療的ケアに関しての協議は継続してもらっている。この間、医療的ケアという言葉自体はすごく浸透してきている。3号研修がスタートしたり、一定進んでいるところはあるように思う。実際にどれだけ人材として拡充できたのかというと、それは実感が伴うところまではいっていない。障がい者福祉、支援に関わる人材そのものが非常に厳しい状況の中で医療的ケアに関わってくれるような人材をどのように確保、育成していくのが難しい状況になっている。その課題をこの場で、どういう形でやれることを見つけていくのかということと、今後の大きなポイントはコーディネーターの役割を担うとされている方々の動きをどう作っていくのかと思っている。そこを次年度以降考えていければと思っている。

委員 ・一年間ありがとうございました。医療型短期入所のワーキングチームに入らせていただいたが、それ以外のところの人材育成、施設口腔ケアの話をお聞かせいただいたので、来年度それについては一緒に検討させていただきたいと思っている。また医療型短期入所については今日意見をいただいている部分もあるので、検討させていただきたいと思う。

委員 ・昨年度から引き続き参加をさせてもらった。ワーキングチームだけでなく口腔ケア等色々勉強させてもらってありがたかった。

副委員長 ・皆さんありがとうございました。各ワーキングチーム、皆さんの力を借りながら、日々勉強させていただきながら進めることができたと思っている。引き続き次年度もよろしく願いしたい。

委員長 ・一年間ありがとうございました。ご苦労さまでした。